

第3学年 国語科学習指導案

期 日 平成23年9月30日（金）公開授業1
授業学級 第3学年男子11名女子14名計25名
授業者 菅原 斉
授業場所 3年教室

1. 単元名 ①物語の感想をまとめよう「ちいちゃんのかげおくり」
(光村図書「あおぞら」3年下)

2. 単元について

- (1) 教材について

本教材は、第3学年及び第4学年の目標(3)「書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、楽しんで読書をしようとする態度を育てる」を受け「C読むこと」領域の「ウ場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと」「エ目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること」「オ文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと」を学習の中心としている。

本作品は児童が初めて出会う戦争作品である。自分達が当たり前で生活している現在とは、遠くかけ離れた過去の出来事である戦時中の過酷な生活について描かれた作品である。主人公ちいちゃんを目を通して見つめる「戦争」について感じたこと、考えたことを文章に表すことを単元のまとめの活動に設定している。文章に書き表していくための学習として、作品中の一つ一つの細やかな言葉や表現、情景描写を大切に読み取らせていくことで、主人公の心情や作品込められた作者の願いへと迫ることができるであろう。

- (2) 児童について

本学級の児童は発表意欲が高く、授業に積極的に参加する児童が多い。しかし、根拠を明確にして自分の考えを述べるのが苦手であり、根拠を尋ねられるとうまく答えることができない児童が多い。また同様に自分の考えや思いを、根拠を明確にして文章にまとめるのが苦手な児童も多い。

児童はこれまでに物語を読んで感想をまとめる活動を繰り返し行ってきた。三年で学習した「きつつきの商売」では「場面」「登場人物」の概念を知り、登場人物の行動、場面の様子を読み取り、「海をかつとばせ」では叙述を根拠に人物像を明らかにし、自分と引き比べながら読み進める学習を経験している。「海をかつとばせ」の学習では、一人学びの場面で主人公の気持ちの変化がわかる叙述にサイドラインを引き、書き込みを行うことで、自分の考えをもてる児童が多かった。しかし、学び合いの場面では友達

の意見を取り入れて、自分の考えを深めることのできる児童は少なかった。学び合いの場面での児童相互の活発な意見交流と、その活動を通して自分の考えをさらに深めていくことが今後の課題である。

(3) 指導について

指導にあたっては、叙述をもとにして主人公の人物像と気持ち、情景を読み取っていく。本単元のまとめとして、感想文を書く学習を設定している。単元のはじめに感想文を書くというゴール像を示すことで、場面の読み取りへの目的意識をもたせたい。

確かに読み取る力を育てるために、自分の考えの根拠となる叙述にサイドラインを引かせたり、書き込みをさせたりし、そのサイドラインや書き込みを手がかりとして自分の考えをもたせる。その上で、グループや学級全体での学び合いを行い、一人一人の考え方の違いに気付かせ、自らの考えを深化させていく。

3. 単元の目標

◎場面の移り変わりに注意しながら読み、人物の行動、情景、会話などの表現に着目して読むことができる。

◎細かい点に注意しながら読み、場面をまとめたり、文を引用したりして感想を書くことができる。

・感想の内容や書き方を比較し、考えの明確さなどについて意見を伝え合うことができる。

4. 評価規準

[国語への関心・意欲・態度]

○言葉や表現に着目して読み、進んで感想を書いている。

[読む能力]

○場面の移り変わりに注意し、それぞれの場面の様子を想像しながら読んでいる。

【(1) ウ】

○感想が文章のどの叙述に基づいているのか、該当する本文を引用しながら表現している。【(1) エ】

○物語を読んで感想をもち、一人一人の感じ方の違いに気づいている。【(1) オ】

[書く能力]

○自分の考え方が明確になるように理由や事例を挙げながら文章を構成している。

【(1) ウ】

○書かれた考え方や書き方を比較し、書き手の考えの明確さなどについて意見を述べ合っている。【(1) カ】

[言語についての知識・理解・技能]

○文章中で使われている表現に注目し、表現するための語句を増やしている。

【(1) イ (オ)】

5. 単元の指導構想表・指導計画（全12時間）・・・別紙

6. 本時の授業

(1) 本時の目標

「かげおくり」をする二つの場面を読み比べ、ちいちゃんが一人でした「かげおくり」はどんなかげおくりだったのかを読み深めることができる。

(2) 本時の指導について

第一場面の振り返りを行った後に、本時で学習する場面との比較を行うことで確かな読み取りにつなげていく。第一場面と第四場面の共通点と相違点を明らかにすることから、かげおくりにこめられた思いやちいちゃんの人物像に迫りたい。ちいちゃんが一人で行ったかげおくりについて一人学びや学級での学び合いを通して読み深めたことを各グループごとの音読に生かしたい。

研究主題に関わって、確かに読み取る力を身に付けさせるために、次のような工夫を行う。

ア 一人学び

[押さえない言葉や文の明確化]

第一場面と第四場面を比較し、共通点と相違点にそれぞれサイドラインを引き、ちいちゃんの姿・心情を捉える。

イ 学び合い

[学び合いを深めるような板書の工夫]

一人学びで見つけた共通点・相違点を手がかりとして、本時の場面のかげおくりについて考える。黒板を第一場面・第四場面の二つに分割し、児童から出された共通点・相違点を時系列に沿って並行する形で書き表すことと相違点の文字の色を変えることによって、学び合いを深めたい。また、学び合いで読み深めたことを生かし、各グループで音読を行うことを本時のまとめとしたい。

(3) 具体の評価規準

観点	十分満足	おおむね満足	努力を要する 児童への支援
【読むこと】第一場面と第四場面を比べ、ちいちゃんが一人でしたかげおくりについて読み取っている。	第一場面と第四場面を比べ、ちいちゃんが一人でしたかげおくりについて読み取り、発表したり聞いたりして考えを深めることができる。	第一場面と第四場面を比べ、ちいちゃんが一人でしたかげおくりについて読み取ることができる。	第一場面と第四場面の違いに着目させる。

(4) 本時の展開

段階	指導内容・学習活動 ○は主発問	重要語句・文	指導上の留意点 評価
導入 ・ つ か む 5 分	<p>1. 前時想起</p> <p>2. 課題把握</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>ちいちゃんが第四場面でしたかげおくりはどんなかげおくりだったのか考えよう。</p> </div>		<p>前時想起を行った後、第一場面についての振り返りも行う。</p>
展開 ・ 深 め る 3 0 分	<p>3. 本時の学習場面の音読</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに役割分担をして、音読する。 <p>4. 場面の読み取り</p> <p><一人学び></p> <p>押さえない言葉や文の明確化</p> <p>(1) 第一場面のかげおくりと比較し、場面の共通点と相違点にそれぞれサイドラインを引く。</p> <p><学び合い></p> <p>学び合いが深まるような板書の工夫</p> <p>(2) 共通点・相違点を挙げ、第四場面のかげおくりについて話し合う。</p> <p>○第四場面でのかげおくりはどんなかげおくりなのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第一場面ではかげおくりを家族全員で行ったが、第四場面ではちいちゃん一人で行った。 ・どちらも家族全員で数えているが、第四場面では、本当はちいちゃんが一人で数えている。 ・本当はいないはずの家族の声が重なっている。 	<p>・ちいちゃんは、ふらふらする足をふみしめて立ち上がると、たった一つのかげぼうしを見つめながら、</p> <p>・くっきりと白いかげが四つ。</p> <p>・青い空からふってきました。</p> <p>・そのとき、体がすうつとすきとおって、一。</p>	<p>・教科書にサイドラインを引かせる。</p> <p>・第一場面と第四場面を上下に分けて、並行する形で板書を行う。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・本当は一つしかないはずの影が、四つと書いてあるから、ちいちゃんは家族のもとへと行った。死んだ。 ○読み取ったことをもとにして、音読のしかたを工夫しましょう。 ・ちいちゃんの声はどうすればいいのかな。 ・どのように数えればいいのかな。 		<p>【読むこと】第一場面と第四場面を比べ、ちいちゃんが一人でしたかおくりについて読み取っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各グループごとに話し合いを行い練習する。
<p>終末 ・ま と め る 1 0 分</p>	<p>5. まとめ</p> <p>学び合いで読み深めたことを生かして音読を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分担読み <p>次時の予告を行う。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・工夫して音読を行っていたグループを選び、全体の前で発表させる。

(5) 板書計画

ちいちゃんのかげおくり

ちいちゃんが第四場面でしたかげおくりはどんなかげおくりだったのか考えよう。

第一場面

「かげおくりのよくできそうな空だなあ。」

つぶやきました。

「ね。今、みんなでやってみましょうよ。」

横から言いました。

ちいちゃんとお兄ちゃんを中にして、四人は手をつなぎました。そして、みんなで、かげぼうしに目を落としました。

「ひとつつ、ふたあつ、みいっつ。」

「ようっつ、いつうつ、むうっつ。」

「ななあつ、やあっつ、ここのうつ。」

「。お。」

すうっと空に上がりました。

第四場面

「かげおくりのよくできそうな空だなあ。」

青い空からふつてきました。

「ね。今、みんなでやってみましょうよ。」

青い空からふつてきました。

本当は聞こえない。

ちいちゃんは、ふらふらする足をふみしめて立ち上がると、たった一つのかげぼうしを見つめながら、

ひとりぼっち

「ひとつつ、ふたあつ、みいっつ。」

「ようっつ、いつうつ、むうっつ。」

「ななあつ、やあっつ、ここのうつ。」

「。お。」

すうっと空にすいこまれるのがわかりました。

ちいちゃんはしんだ

< 単元指導構想表 >

	1	2	3	4	5
目標	学習の見通しを持ち、初発の感想を書くことができる	場面ごとにあらすじを確認し、読み深めたい課題を立てることができる	家族揃ってのかげおくりをする様子や登場人物の心情を叙述に即して読み取ることができる	一人ぼっちになっていく、ちいちゃんの気持ちを、会話文や様子を表す言葉から読み取ることができる	お母ちゃんやお兄ちゃんの帰りを待つちいちゃんの気持ちを、ちいちゃんの様子や会話から読み取ることができる
課題	心に残ったことについて感想を書こう	場面ごとのあらすじをたしかめて、学習の計画を立てよう。	家族そろってのかげおくりをしている時の気持ちを考えよう。	たくさんの人の中でねむるちいちゃんの気持ちを考えよう。	一人になってお母ちゃんとお兄ちゃんを待つ、ちいちゃんの気持ちを読み取ろう。
一人学び	一人学びの仕方の明示 面白いなあ、不思議だなあ、いいなあと思ったところにサイドラインを引き、考えの根拠も合わせて感想を書く	一人学びの仕方の明示 読み深めたい場面を選び、あらすじをノートにまとめる	押さえない言葉や文の明確化 登場人物の気持ちが分かる部分にサイドラインを引き、ノートにまとめる	押さえない言葉や文の明確化 ちいちゃんの気持ちがわかる叙述にサイドライン引き、ノートにまとめる	押さえない言葉や文の明確化 ちいちゃんの気持ちが分かるところにサイドラインを引き、ノートにまとめる。
学び合い	学び合いの形態の工夫 感想についてグループで交流し合う	学び合いの形態の工夫 場面ごとにグループを作り、持ち寄ったあらすじを読み合う	発問の精選・工夫 「家族そろってのかげおくりと兄弟だけのかげおくり、それぞれの気持ちは同じかな」と発問をし、かげおくりをする気持ちの変化について読み取りをする	発問の精選・工夫 「ひとりぼっちで眠るちいちゃんになって気持ちを考えよう」と発問をし、気持ちを想像させる。	発問の精選・工夫 「ちいちゃんはこの場面中、どんな気持ちだったでしょう」と発問をし、深く考えさせる。
まとめ			お父ちゃん、お母ちゃんは悲しい気持ち ちいちゃん、お兄ちゃんは楽しい、うれしい気持ちだった	空しゆうでひとりぼっちになってしまった、ちいちゃんはこわくてかなしい気持ちでねむった。	ちいちゃんは、お母ちゃんとお兄ちゃんがいなくても不安だけど、泣くのをこらえて、二人が帰ってくるのを信じている。
評価規準	【関】「ちいちゃんのかげおくり」を読んだ感想を書いている。	【関】自分の読みたい場面を選び、あらすじをまとめようとしている	【読】叙述から家族それぞれの気持ちを想像している	【読】一人ぼっちになったちいちゃんの気持ちを文章から読み取っている	【読】お母ちゃんやお兄ちゃんの帰りを待つちいちゃんの気持ち読み取っている。

	6<本時>	7	8	9・10	11・12
目標	「かげおくり」をする二つの場面を読み比べ、ちいちゃんが一人でした「かげおくり」はどんなかげおくりだったか読み深めることができる。	ちいちゃんのいない公園の場面があるのはなぜかを話し合うことができる。	感想の「はじめ」と「おわり」の書き方を知り、工夫して書くことができる。	感想文の「中」の書き方を知り、本文を引用や工夫して書くことができる。	感想文発表会をし、友達との考え方の違いや書き方の違いに気づくことができる。
課題	ちいちゃんが第四場面でしたかげおくりはどんなかげおくりだったのか考えよう。	ちいちゃんのいない場面がる理由を考えよう。	感想の「はじめ」と「おわり」の書き方をくふうして書こう。	感想文の「中」を工夫して書こう。	感想文発表会をしよう。
一人学び	押さえたい言葉や文の明確化 第一場面と第四場面を読み比べ、違っている部分にサイドラインを引かせ、書き込みをさせる。	押さえたい言葉や文の明確化 第五場面がある場合と無い場合の違いについて考え、ノートにまとめさせる。	一人学びの仕方の明示 ノートを振り返り、心に残った場面や叙述に着目させる。	一人学びの仕方の明示 ノートを振り返り、心に残った場面や叙述に着目させる。	一人学びの仕方の明示 発表のしかたを考える。
学び合い	学び合いを深めるような板書の工夫 一人学びで見つけたことを、板書に書き表す。	学び合いの形態の工夫 ノートをもとにして、グループで意見を交流し合う。	学び合いの形態の工夫 ノートを読み合い、隣の友達と意見を交流し合う。	学び合いの形態の工夫 ノートを読み合い、隣の友達と意見を交流し合う。	学び合いの形態の工夫 グループで発表しあい、感想を交流しあう。
まとめ	読み深めたことを生かしてグループ毎に音読を発表する。	ちいちゃんの時代は、せんそうでたくさんのがなくなっただけ、今の時代はた平和にすごしている。	感想の「はじめ」と「おわり」をまとめる。	感想の「中」をまとめる。	感想発表会で感じたことや気づいたことをまとめる。
評価規準	【読むこと】第一場面と第四場面を比べ、ちいちゃんが一人でしたかげおくりについて読み取っている。	【読】叙述をもとに、登場人物の気持ちを想像している。	【書】本文を引用したり、要約したりして感想を書いている。	【書】本文を引用したり、要約したりして感想を書いている。	【関】感想を発表しあい、友達の感じ方の違いについて気づいている